

日本とタイの子供たちが描いた川の絵の交流について

Exchange Program of Children's Pictures on Rivers

Between Japan and Thailand

○原田泰, 飯岡清子, 古武家善成, 美濃原弥恵, 土永恒彌

Tai Harada*, Kiyoko Iioka**, Yoshinari Kobuke***, Yae Minohara****,

Tsuneoya Tsuchinaga*****

*産業技術総合研究所, **やすらぎコンサート,

兵庫県立健康環境科学研究所センター, *アクアフレンズ,

*****タツタ環境分析センター

〔要約〕

環境教育における美術の利用と異文化理解を目的として日本とタイの間に子供に川の絵を描いてもらい、双方で展示を行う交流プログラムを実施した。絵は北タイの Ban Mae Faek 小学校, Wat Ban Kong 小中学校, 西宮市の公同幼稚園, 柏原市のガールスカウト大阪 97 師団の子供たちが制作した。また大和川クリーンキャンペーン 2005 の入賞作品の複製品の提供を受けた。

「私の水辺」中河内地域交流会での展示においてアンケートを実施し 100 枚の回答を得た。来場者がタイの子供たちの絵から受けた印象は自然の豊かさ, 幸せな生活であったが, タイの学校, 子供たちの説明とは異なっている。作品を通したメッセージ交換においては作者－作品－鑑賞者の関係とメッセージ交換を取り巻く状況の考察が必要である。

〔キーワード〕水環境, 教育, 絵画, 異文化理解

1. はじめに

演者らは 2001 年より 2004 年まで財団法人地球環境センターが北タイ, ランプーン市と共同で実施した「環境保全に向けた住民参加型実践活動モデル事業」に専門家として参加し, 河川の環境調査の手法として日本の市民活動が用いている化学的物理的な水質調査の技法を紹介した。この事業で 2 つの課題が残された。一つは COD(化学的酸素要求量)と透視度による日本の簡便な水質検査法がタイの河川にはうまく適用できなかったことであり, もう一つはタイ市民の川に対する価値観, 環境観を明瞭に把握することができなかったことであった。そこで 2004 年にタイの水環境と環境教育の調査研究を継続するために参加型環境教育研究会 (PeeSG) を結成した。現在, チェンマイ大学の研究者と協力してこれらの課題に取り組んでいる。

本発表では 2006 年から 2007 年にかけて実施した日本とタイの小, 中学生の川を題材とした絵の交流の実施内容, 考察及び今後解決すべき問題点などについて報告する。

図 1 に今回交流を行った対象地域を示す。

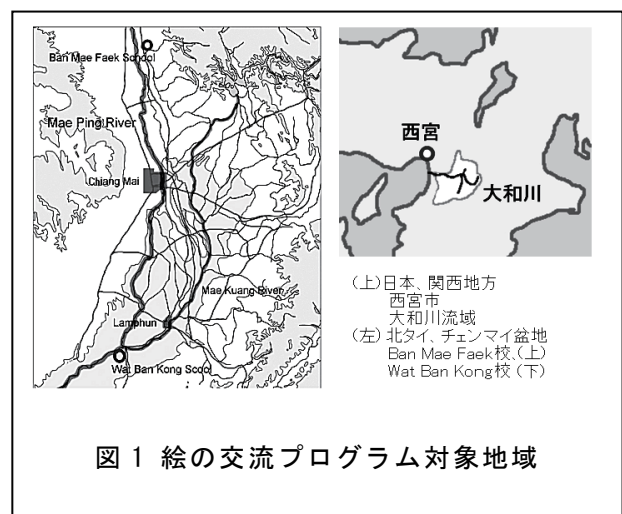


図 1 絵の交流プログラム対象地域

2. 研究の目的

環境教育において、風景の写生や意識啓発のためのポスター作成など美術の分野に関わるさまざまな教育活動が実践されている。また外国の学校との絵の交換は国際交流、異文化理解教育の手法として広く知られている。しかし絵の交換が実際にどのような意味を持ち、どのような効果があるのかを掘り下げた研究は環境教育の分野ではあまり行われていない。

そこで参加型環境教育研究会が行ったタイと日本の子どもたちが描いた川の絵の交流プログラムの実施の経過を報告するとともに実施過程で明らかになった問題点を解析して、今後の研究課題を整理する。

3. 研究の方法

この絵の交流プログラムは「絵の制作」「絵の展示」「絵の鑑賞」の3段階からなる。

3. 1 絵の制作

タイでは、チェンマイ県の Ban Mae Faek 小学校とランブーン県の Wat Ban Kong 小中学校(一貫校)の2校の生徒たちが制作した。

日本では、西宮市の共同幼稚園の卒園生と柏原市のガールスカウトの子ども達が制作した。また国交省大和川工事事務所より大和川クリーンキャンペーン 2005 のコンクール入賞作品の複製品を提供していただいた。

表1に参加団体と交流展示のために提供された作品数を示す。

表1 参加団体と制作枚数

団体名	展示数
Ban Mae Faek 小学校	絵 20 枚
Wat Ban Kong 小中学校	絵 5 枚 立体画 14 枚
西宮共同幼稚園卒園生	塗り絵 13 枚
ガールスカウト大阪 97 師団	絵 14 枚
大和川 クリーンキャンペーン 2005	絵 18 枚 ポスター 18 枚

3. 2 絵の展示

タイと日本とで、それぞれ2つの国の絵を並べて展示することとし、それぞれ自分たちの地域や学校の紹介文を作成して同時に掲示した。

タイでは、それぞれの学校の講堂や教室に展示されている。

日本では2007年2月に東大阪市と大阪市内で開かれた私の水辺発表会の会場内に掲示された。このあと西宮市の共同幼稚園、3月の日本水環境学会年会会場などで展示される。

図2に展示の様子を示す。



Ban Mae Faek 小学校(2007年1月12日)



「私の水辺」中河内地域交流会(2007年2月3日)

図2 展示のようす

3. 3 絵の鑑賞

2月3日東大阪市で開催された「私の水辺」中河内地域交流会の来場者にアンケートを実施して、展示の効果を検証した。(4.2で詳説

する。)

4. 結果

今回のプロジェクトでは企画段階で十分に調整できなかったため、制作、展示ともに場所により取り組みが異なった。

4. 1 絵の提供団体

絵を提供した団体の概要と環境教育活動の取り組み、絵の制作の背景をまとめる。

(Ban Mae Faek 小学校)

1月12日に学校を訪問し校長より以下の説明を受けた。

この学校は ChiangMai 市の北 20 キロほどの山地と平野部の間に位置し全校 133 人、教師 3 名で、子供たちは周辺の 4 つの村から通っているが、ほとんどが農家であり豊かではない。進学率は低く、高校卒業後、村に戻り農業や建築関係の仕事に就く。

地域の最大の問題は山の森林伐採で洪水が起りやすくなっている。学校としての環境教育の取り組みは 5 年ほどである。高学年を対象に毎年 5 日間のワークキャンプを実施している。家から学校に通い、森に入ったり水源地の観察などを行う。通常行っている 8 教科を環境教育の観点で行う。現場で状況を観察し、問題を発見し、解決策を検討させる。

今回の絵は、昔はこうしていた、よい環境はもどってきてほしいという思いを込めて描いたものである。

(Wat Ban Kong 小中学校)

ChiangMai 市から南 20 キロ程度、ピン川とクワン川の合流点にあり生徒 221 人、先生 16 人である。川とともに生活しており、川の環境問題が重要である。村と寺と学校の 3 つの協力を重視している。2005 年にチェンマイ大学の指導で水環境の改善をテーマに 7-8 学年で年間の総合学習カリキュラム(表 3)を実施した。

展示された絵は 8-13 歳(1-6 学年)の生徒たち

が描いたものである。

表 3 Wat Ban Kong 小中学校の環境教育プログラム

1	地域の学習	川の様子、源流、川の職業などの見学
2	川の調査	川岸の浸食、ゴミの投棄、家庭排水
3	問題発見	堰の影響、川の生態系、ゴミ、水質調査
4	教室内発表	
5	地域の協力	川岸に木を植えて浸食を防ぐ。
6	対策の提案	
7	地域の発表	魚加工のゴミを肥料にする。家庭で使われる化学物質を紹介する。
8	流域の連携	ピン川流域のネットワーク

(公同幼稚園)

兵庫県西宮市の市街地にあり武庫川から分水された津門川に接しており、この川のゴミ拾いや生物観察などを行っている。今回は指導者が作成した津門川の光景の線画に、卒園生が着色した。

(ガールスカウト大阪 97 師団)

このグループは大阪府柏原市にあり、大和川の河川環境改善の活動に参加している。今回は 6 名がグループの活動をテーマに 2-3 枚ずつ描いたものである。

(大和川クリーンキャンペーン 2005)

大和川クリーンキャンペーンは国交省大和川河川事務所が主宰し「大和川(絵・ポスター・作文・写真)コンクール」「やまとがわ水環境塾」,「やまとがわ博士講座」の 3 イベントからなる。

案内文書では、目的を「本コンクールは、作品の応募を通じて大和川の水環境の現状や水質改善の必要性について実感していただき、更なる大和川の水環境が改善されることを期待しています。」とし、「やっぱりいいよね!大和川」をテーマに「ゴミがたくさんある大和川だけど、いいところもたくさんある大和川、応募者各自の大和川への想いのあふれた

作品を募集します。」とある。絵, ポスターは幼児, 小・中学生が対象である。

審査委員は大学講師(委員長), 純粋造形家, 児童文学者, 芸術大学教授, 婦人団体協議会会長, 市民団体代表の6名である。

2005年は2310点の絵と1243点のポスターから審査員がそれぞれ18点ずつを選び入選作品となった。今回展示されたのはこれらの複製品である。

4. 2 アンケート結果

2月3日「私の水辺」中河内地域交流会において来場者に対して表4の内容のアンケートを実施し, 100枚の回答を得た。

表4 アンケート項目

	質問項目
1	年齢(小、中、高、20、30、40、50、60代以上)
2	あなたがすてきだな、と感じた絵はありましたか?
3	おもしろいと感じた絵はありましたか?
4	タイも日本も同じだなと感じる絵はありましたか?
5	タイと日本で違うなと感じる絵はありましたか?
6	タイの子供たちの絵を見て感じたことはありますか?
7	タイと日本の子供たちの絵の交流について、ご意見があればお書きください。

回答者の年齢構成と年齢層ごとに最も回答が多かった作品番号を表5に示す。

表5 アンケート回答者の年齢構成と最も回答が多かった作品

年代	人数	すてき	おもしろい	同じ	違う
	人	作品番号			
小学	25	18,21	3,21	19,21	16
中学	0	-	-	-	-
高校	0	-	-	-	-
20代	11	21,28	6	38	-
30代	10	21	6,16,33	38	16,28
40代	20	21	16	38	11,25
50代	17	28	7	36	16
60代	17	34	16	-	16
合計	100	-	-	-	-
最多番号(全体)		21	16	38	16

中学生, 高校生はほかの年齢層に比べて来場者数が少なく回答は皆無だったが, ほかはそれぞれ10-25名が回答してくれた。

(印象に残る絵)

最も多くの人々が「すてき」と感じた絵は21番で「おもしろい」絵は16番であった。タイと日本とで「同じ」と感じた絵は38番, 「違う」と感じた絵は16番であった。

21番は川に虹が掛かっている絵で色彩が鮮やかであった。16番は川の流れる草原に象, トラ, 蛇, シカ, 鳥, 魚などの動物が列をなしている絵で楽しいものであった。38番は川岸に工場が並び, パイプから排水が流れ出している立体図である。

(記述項目)

小学生の感想は「きれい」「色彩が豊か」「タイの様子がわかる」などであった。20代以上では「タイは自然が豊かだ」「幸せそう」「生活が描かれている」などが多かった。

5. 考察

アンケートでも絵はことばが通じなくても相手の文化を理解することができる, という感想があったが, このような考え方は絵によるコミュニケーションの教育的な効果として広く受け入れられている。しかし, 今回タイの子供たちが描いた「豊かな自然」「幸福生活」はタイの子供たちが理想として表現したものであり現実の地域社会の姿ではない。これは学校から寄せられた地域紹介の文章や子供たちが絵に添えたメッセージに「ことば」で書いてあるのだが, 来場者の絵のメッセージ理解に影響を与えなかったようである。

「作品」は鑑賞者に何らかのメッセージを伝えるが, そのメッセージがどのようなものなのかは「作者-作品-鑑賞者」の関係とこれらを取り巻く状況を考慮する必要がある。

今回は絵の制作段階の取り組みが欠けていたが, 今後は制作の動機づけ, 指導など制作過程も含めて研究を行いたい。